

1 4 油 脂

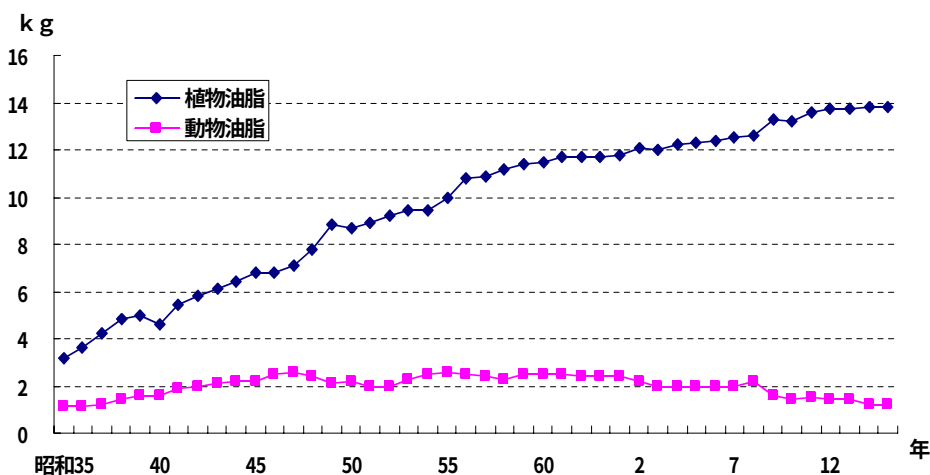
「 検 証 シ ー ト 」

品目名	1 4 油 脂			
目標値等 (基準年・実績値)	望ましい食料消費		生産努力目標	
	■国内消費仕向量 (単位：万ト)			
	H 9	H 1 5		H 2 2
	2 8 6	2 9 1		2 8 1
	■ 1 人・1 年当たり純食料 (単位：kg)			
H 9	H 1 5	H 2 2		
1 4 . 9	1 5	1 4		
	基準年である 9 年以降の油脂類の消費量については、国内消費仕向量の約 85%（15 年）を占める植物油がやや増加する中、動物油脂がかなりの程度減少していることから、全体としては、ほぼ横ばい、ないしはわずかに増加する傾向で推移。 油脂類の需要を 1 人・1 年当たり純食料について見ても、9 年 14.9kg(うち植物油脂 13.3kg 動物油脂 1.6kg)であったものが 15 年は 15.0kg(植物油脂 13.8kg 動物油脂 1.2kg)とほぼ横ばい、ないしはわずかに増加する傾向で推移。 なお、粗食料全体の用途別需要割合の変化の推計値を見ると、9 年当時約 21%であった家庭用需要が 15 年は 17%と減少する中、業務用需要が 34%から 36%に増加し、加工用需要も 46%から 47%に増加。			
これまでの主な取り組み	■望ましい食料消費 ・食生活指針の普及により、脂質摂取過多の改善など食生活の見直しを推進。			

■望ましい食料消費

- ・油脂の消費の削減を目標とする中で、油脂はそれ単独で食される機会は少なく、「見えない油」と言われるように、特に加工食品や中食の製造段階で使用されるものが多いことから、消費段階での削減が難しいという特質があるため、1人1年当たりの純食料は依然横ばいで推移。
- ・粗食料全体でみると、家庭用の食用油脂の消費は減少傾向にある反面、業務用需要及び油脂需要の半分程度を占める加工用需要が、食の多様化に伴い概ね増加傾向にあり、全体としてはわずかに増加。

図ー1 植物油脂及び動物油脂の1人1年当たり純食料の推移



出典：食料需給表